

平成 26 年度 関西福祉大学金光藤蔭高等学校 学校評価報告書

1 めざす学校像

すべての教育活動の基として「建学精神」を教職員・生徒・保護者に啓発、浸透を図る。
普通科に特色のある 4 つのコースを設け、生徒の持つ潜在的な資質と特性を生かす教育をめざす。
いずれのコースにおいても、生徒一人ひとりの能力や個性を最大限伸ばし、本校の建学の精神である「世のお役に立つ人間」を育てる。

2 中期的目標

- 創立 90 周年に向けた教育改革短期ビジョンと学校経営の健全化
- (1) 本校独自の 4 コース制の再構築と確固とした教育システムの確立をめざす。
 - (2) 生徒の学力向上と自尊感情の創造を重点課題とする。
 - (3) 転退学の防止対策(学力対策・生徒指導改革と保護者とのスクラム)を強化・徹底を図る。
 - (4) 340 名(定員 280 名)を超える入学生を確保することにより、収支決算の黒字化を図る。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒に対して <各教科年 1 回、授業評価アンケートを実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に積極的に参加する生徒が少ない。 ・家庭学習をする生徒が少ない。 <p>○教職員に対して <年度末実施></p> <p>※評価対象：64 人 実施日平成 27 年 2 月 28 日 回答数：64 人 回答率：100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員による 4 段階の自己評価アンケートで、年度当初に掲げた「具体的な取組計画・内容」について、「よくあてはまる」と回答した教職員の割合が 50%未満の場合は、改善策を検討することとしている。アンケートの結果、「具体的な取組計画・内容」について、「よくあてはまる」と回答した教職員の割合は、50%以上であった。 <p>【分析】</p> <p>「具体的な取組計画・内容」について、「よくあてはまる」と回答した教職員の割合は、50%以下の項目はなかった。しかし、ほとんどが「50%以上」であったので「75%以上」を目指せる項目を増やしていきたい。</p>	<p><u>学校評価委員の構成</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ①学識経験者(生徒進学先/大阪人間科学大学教授) 「須田正信 氏」 ②学校近隣防犯委員「新居見英夫氏」 ③本校 PTA 会長 「合田里美佳氏」 <p><u>学校評価委員の意見</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「わかる授業、授業力向上」等の目標に対して、「今後も質の高い教育を目指していく」等の自己評価のとおりに着実な学力向上を期待したい。 ◆ 「学校の教育力や生徒指導力」等の目標に対しても、学校組織の機動性を発揮して、生徒・保護者との連携を密にして欠席・遅刻・中途退学者の減少に向けた取り組みを期待したい。 ◆ 「教育システムの構築」に対しても学校組織の連携を図り、仕組みの促進を期待したい。 ◆ 生徒たちが近年落ち着いてきた。教育効果の表れだと思う。進路別学級編成は大賛成である。 ◆ 進路別学級編成で指導が行きわたる。生徒たちの希望にかないやすい。 ◆ 生徒指導は面倒みよくやっけていただいている。 ◆ 内環状線沿いや学校周辺の清掃活動はありがたい。これからも続けてほしい。 ◆ 生徒たちの活発な学園生活は近隣お年寄りの元気の源、多少騒々しくなるが学校の存在感は大切である。 ◆ コースの具体的な内容についてはほとんどわからない。近隣に対し学校の説明をしていただく機会を持ってほしい。 ◆ コースの改編について選択できる枠が増えこれからは期待する。応援していきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価									
四コース制の再構築、教育システムの確立	進学コース・トップアスリートコースの改編	<p>ア) 進学コース：1年次から担当による7時間目の授業などを実施し、基礎学力向上を図る。</p> <p>イ) 平成27年度から従来の文系中心の進学コースから理系希望の生徒も募集する。文理特進 AB と改称する計画である。</p> <p>ウ) トップアスリートコース：従来の5強化クラブにサッカー部男女を加え学年2学級とする。校舎を本校舎に統一し、東校舎は人工芝と柔道場とし、体育施設を充実する。</p>	<p>ア) 担当者による7時間目の授業を通して学力向上を図ったか。</p> <p>イ) 文理特進 AB で志望生徒を30名以上募集できたか。</p> <p>ウ) サッカー部を加えて2学級体制とし、グラウンド等施設の充実として現在比人工芝の面積を2倍以上にできたか。</p>	<p>ア) 担当者による7時間授業を実施し、進学を目指す生徒への環境づくりに貢献できた。今後も引き続き実施する。</p> <p>イ) 文理特進 AB コースとして希望生徒が25名入学した。目標を下回った理由を広報活動の不徹底、カリキュラムの説明不足に絞り、学校案内・入試説明会等で広報の充実と受験対策を踏まえたカリキュラムの具体的説明をする。</p> <p>ウ) 人工芝面積は現在 652.5 m² を 1582.7 m² に約2.4倍に拡張できた。また、校外(近隣)に週3回グラウンドを借用できた。結果的にはトップアスリートコース2学級体制が実現できた。</p>									
生徒の学力と自尊感情の創造	授業力向上に取り組み、そのことによる自尊感情の創造	<p>ア) 1学年で基礎基本の習熟をめざしベネッセのマナトレを導入する。</p> <p>イ) 進路別学級編成により生徒のモチベーション向上を図る。</p> <p>ウ) 生徒による授業評価・結果の分析・改善に取り組む。</p> <p>エ) 研究授業を実施し、互いの授業の研鑽に励む。</p>	<p>ア) 1学年は自学自習教材マナトレを通じた基本学習が難関を通じ週4回実施できたか。10級から7級(中学初年度程度)の認定テスト合格率80%以上が実現したか。</p> <p>イ) 進路別学級編成をし、効果が上がったかを前年比欠席数の減10%を達成できたか。</p> <p>ウ) 生徒による授業評価を実施し、結果授業に対する生徒の満足度(満足、やや満足)が80%以上になったか。</p> <p>エ) 学力向上のための研究授業・公開授業参加を延べ100名以上取り組んだか。</p>	<p>ア) 1学期：下位30名に特別補習を実施 2学期：認定テストを実施 ：10級から7級の合格率 国語 86.5%以上 数学 53.8%以上 英語 33.3%以上 であった。</p> <p>国語のみが目標の80%を達成できたが、数学、特に英語は基礎力の徹底が困難であった。</p> <p>教材の内容が本校生徒に合わない部分があったので3学期からは独自教材で放課後取り組んだ。次年度からも独自教材を利用して特に数学・英語の充実を図りたい。</p> <p>イ) 平成25年度入学生と26年度2学年の進路別学級編成を実施したコース(IT・ライフ)の1人当たりの年間欠席総数を比較した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>IT</th> <th>ライフ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25年度</td> <td>26.8日</td> <td>27.4日</td> </tr> <tr> <td>H26年度</td> <td>12.5日</td> <td>17.9日</td> </tr> </tbody> </table> <p>欠席数でモチベーションの上下を判断するのは完全ではないものの1つの指標にはなると判断すると明らかに前年比ITで前年比53%減、ライフで35%減になった。学級編成の効果がたと判断する。今後も継続していきたい。</p> <p>ウ) 数教科でアンケートを実施・分析・改善をした結果授業の満足度が84%であった。次年度は教務部で一括して調査し、分析結果を各教科に下し、さらなる改善を促す。</p> <p>エ) 参加した教員は延べ5名だけであった。積極的に行動する教員が少ない。授業研鑽に消極的であったといわざるをえない。</p> <p>次年度は期間を限定し、徹底して回数・質とも高め授業力向上に努めたい。</p>		IT	ライフ	H25年度	26.8日	27.4日	H26年度	12.5日	17.9日
	IT	ライフ											
H25年度	26.8日	27.4日											
H26年度	12.5日	17.9日											

<p style="text-align: center;">転退学防止対策の強化</p>	<p>生徒指導に対する基本的姿勢の確立</p>	<p>ア) 生徒指導を組織的・計画的に実施する。担任力・生徒指導力を高めるための教員研修を実施する。</p> <p>イ) 登下校時・授業時の挨拶を励行する。</p> <p>ウ) 生徒指導懲戒規定の改定を行う。</p>	<p>ア) 担任力・生徒指導力を高めるための教員研修を行ったか。</p> <p>イ) 全員の生徒が朝の挨拶をしたか。 生徒会執行委員が学期に1回意欲的に挨拶運動に取り組めたか。</p> <p>ウ) 停学期間をできるだけ短縮する(7日間を3日間、14日間を7日間など)ことで対象生徒がクラスから遊離しない環境づくりに努めたか。</p>	<p>ア) 担任力・生徒指導力を高めるための教員研修を実施した。(5月授業について、担任力向上、本校の教育理念について、6月人権研修、9月約1か月間ある私立高校との授業見学交流、10月生徒指導研修で6回) これら研修を通じ、生徒指導部とともに校則違反の可能性を予測し、事前対応の強化を行った。併せて保護者とのスクラムを強化、進路別学級編成することにより退学者を58名に減らした。</p> <p>イ) 約80%の生徒が朝の挨拶を元気よくするようになった。校内に挨拶運動のポスターを掲げ、啓発に努めることで、生徒の意識向上につながった。年中生徒会執行委員が早朝の挨拶運動に取り組んだ。残り20%の生徒を少なくしていきたい。</p> <p>ウ) 停学期間は基本的に短縮した。(7日間を3日間、14日間を7日間など)この期間の指導内容は以前とは変わらないが、密度を濃くすることで期間短縮につながった。授業の遅れ、クラスから遊離させないよう配慮できた。今後も十分指導した上で学級復帰後指導生徒がスムーズに対応できるよう努める。</p>
<p style="text-align: center;">三四〇名を超える生徒の確保</p>	<p>広報・生徒募集活動の強化</p>	<p>ア) オープンスクール・入試説明会・塾長対象入試説明会・中学校教員対象入試説明会と学校案内充実を図る。</p> <p>イ) 学校ウェブサイト充実させる。</p> <p>ウ) 私学展等へ組織的な参加を行う。</p> <p>エ) 平成27年度スタートの文理特進とトップアスリートコースの募集の強化を図る。</p>	<p>ア) 入試説明会や学校案内等の改善予定項目(製作スケジュール、新コース文理特進やトップアスリートコースの情報を掲載、文章を減らし、極力シンプル等)で340名以上の生徒確保につながったか。</p> <p>イ) 本校の多様な教育システムをわかりやすく紹介した学校ウェブサイトになっているか。更新が月20回以上されているか。</p> <p>ウ) 私学展に教職員が延べ20人以上参加し、広報募集活動に貢献できたか。</p> <p>エ) 学校案内以外にチラシを作成し、H25年度と大きく変わるこの2コースをアピールできたか。</p>	<p>ア) 入学生徒は目標を下回り298名であった。学校案内は製作スケジュール、新コース文理特進やトップアスリートコースの情報を掲載、文章を減らし、極力シンプル等は計画通り実施したが、他校と比べて特徴の少ないものであった。特色を大きく出す形で次年度改定し、340名以上を実現したい。</p> <p>イ) 視覚に訴えなおかつ本学園の一体感を表現するために専門業者に学園で統一感のあるウェブサイトを作成依頼した。学校ウェブサイトの更新はしたが、毎月約10回程度で頻繁とは言えない。来年は月20回以上を目指す。</p> <p>ウ) 私学展に教職員が延べ35人以上参加し、学校間の情報交換と希望者への広報活動に貢献できた。他校の広報状況や現実の中学生とその保護者の本校への認識を教職員全体に共有できた。</p> <p>エ) 文理特進Aコースの専願者の質の向上と人数の確保は、本校の将来展望に大きく関わってくる。生徒募集で①中学校との進路相談における細やかな説明、②インセンティブとしての入学時の成績上位者への対応、③学力の伸び率最大等を謳ったことにより、25名の生徒を募集できたが、中期目標の第1点でも記したが、目標の30名には達しなかった。トップアスリートコースはサッカー部新設に伴い、広報活動の結果目標の70名を超えて77名の入学があった。今後も、引き続き、コースの内容と募集方法の改善を実施する方針である。</p>